

第16回まち Lab

とき : 平成19年1月17日(水)開催

ところ : まちやサロン於

モデレーター : 猪俣

参加者 : 樽木、中村(豊)、荒井、津久井

欠席者 : 野村、中村喬、加藤、鈴木、藤野

AGENDA

■報告事項

次回、シラバスのような講義内容、使用教材などについて書かれた年間計画を立てる予定。

■輪読

報告者 : 荒井

「地域再生に金融を活かす ～公民連携の鍵を握る金融の役割～」

出版社 : 学芸出版社 著者 : 根本祐二

第4部「地域価値の実現と100年後の未来」(10章～12章/158～203頁)

- (猪俣) ・行政と市民は、公共財と税金をそれぞれ地域に投資している。
 - ・その補完パートナーシップをうまくとっていきべき。
 - ・エイジェント理論・取引コスト理論は効率性をたどっていく上で考えていくべき。
- (中村) ・館林全体として、地域価値への理解は低い気がする。今後は、地域価値を考えていくべき。
 - ・行政と市民の信頼関係の構築は、心がけていかなければならない。
- (荒井) ・地域価値の例として金沢の「景観」が挙げられているが、一般的には利便性が最大の地域価値になってしまうのでは？
- (樽木) ・銀行はプレイスメイキングする余裕はあるのか？
 - ・著述されている「投資価値＝物件価値×地域価値」の方程式に当てはめ、数値的に表すことができるのか？
 - ・理想は、「地域間コミュニティのつながり」ができること。
 - ・歌舞伎町は、規制により白看板減少に向け動き出しており、犯罪対策にはなると思うが、人の流れを減少させてしまう恐れもあると思う。
- (津久井) ・地域価値と物件価値は、発展すると「固有の地域ブランド」にもなると思う。これが、「地域満足度ランキング」や「住みやすさランキング」のような地域格付において有効な武器になると考える。それを実践する上でのツールとして、ここで挙げられるコミュニティ・クレジットや地域マネージメント法人を検討していく必要がある。

○次回「第17回 まちLab」

とき : 2/6(火)午後7時～

ところ:まちやサロン於